釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和６年（2024年）９月24日発行　VOL 26

教師として身に付けたい「７つの力」

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

９月の週末は毎週のように部活動の釧路地区新人戦が行われます。各部活動とも１・２学年の生徒たちが中心のチームとなり、各校との熱戦を繰り広げます。７月の中体連釧路地区大会では３学年の先輩を支える役回りでしたが、一夏の練習を乗り越えて「自分たちが」という自覚が芽生え、今は主役としてチームをしっかり引っ張っています。厳しく激しい練習を通して自ら成長していく生徒たちは本当に立派だと思います。そして、生徒たちの成長の後ろには、それを支える教職員の姿があります。生徒たちが主役に成長するように部活動をマネジメントしている教職員の部活動経営の手腕も大したものだと思います。部活動の指導に立ち会う姿や教科経営、学級経営に臨む姿、日常の職員室で仕事をする姿から、生徒の成長を支える教職員にはどんな力があるのか観察してみました。その結果、オランダやカナダの教員の質の向上のためのテキストなどを検討して日本の教員向けに作成された「教員のためのリフレクション・ワークブック」に示されている次の７つの力が備わっているのではないかという結論に至りました。

１　成長しようとする力
２　対人関係の力
３　教育者としての力
４　学びの場をつくる力
５　組織する力
６　同僚・仲間と協働する力
７　学校を取り巻く人々と協働する力

紙面の都合で、それぞれの力についての解説は割愛しますが、教員養成の過程では３と４の理論を知識として知るところに止まり、実践的な力を付ける機会はほぼないと思います。１と２は本人の特性に頼ってしまい、具体的に力を付けていくトレーニングはなされません。５、６、７は学校において体験的に学ぶか、教員によっては学校外の活動の中で自分で身に付けるのだと思います。

しかし、日常の業務を続けながら、教員が７つの力を付けるために学ぶ機会はなかなか得られないと思います。７つの力を身に付けている教職員の様子を見ていると、この７つの力の重要性に自分で気付き、日常の業務を通して意識的に自ら身に付けているように思います。そして、自分と自分の学校の日々の授業や活動の意義を振り返る基本的な視点を知るところから入っているのだと思います。

先月、中央教育審議会が答申「『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について」を公表しました。そこに、質の高い教師の確保・育成に向けて、2026年度までの集中改革期間を通じてスピード感をもって、働き方改革の更なる加速化、処遇改善、指導・運営体制の充実、育成支援を一体的に進めることが示されています。私たち教員を取り巻く環境は改善されていくと思いますが、ただ流れに身を任せるのではなく、そもそも教育の目標は何であるかを改めて考えること、そして同僚と協働して自分を高め、学校風土を温かくしていく姿勢が大切だと思います。